機能的残気量測定	S002
	担当部署
FRC	生理

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		該当なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→呼吸機能検査→簡略全肺機能(VC・FVC・FRC・DLCO)
	2	電子カルテ→指示①→生理→呼吸機能検査→全肺機能(VC・FVC・FRC・DLCO・CV)
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		健常人では、加齢に伴い残気量(ＲＶ)が上昇する。FRC、TLC はほとんど変わらないので、残気率(RV/TLC)も年齢とともに上昇する。RV/TLC は若年者で 20%前後であるが、高齢者で 30%前後まで上昇する。 体位変換の影響では、立位から背臥位になると、TLC、RV はわずかな減少にとどまるが、VC 約 10%、FRC が約 20%減少する。横隔膜や胸郭の位置が変化して胸郭系の弾性が変わるための結果と考えられる。
検査受付時間		8：45～17：30

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	1) 検査直前の激しい運動は避ける。 2) 体を締め付けるような服装(ボディスーツ、コルセット)は避ける。 3) 食事などに制限はないが、検査直前の過食や喫煙は検査データに影響を及ぼす可能性があるため、できるだけ避ける。
検体採取の特別なタイミング	該当なし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	人体(呼気ガス)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2					
3					
4					
5					
6					

7					
8					

検体搬送条件	ベッド不可
検体受入不可基準	1)6 歳以下の小児 2)意思疎通のできない患者 3)座位姿勢がとれない患者 4)検査に同意が得られない患者 5)身体的な理由によりマウスピース、マスクを使用できない患者
保管検体の保存期間	特記事項なし

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	3 時間
生物学的基準範囲	1) FRC,RV はともに予測値に対する百分率、すなわち%RV および%FRC で評価される。 2) 80～120%を基準値とする。残気率(RV/TLC)の上昇も閉塞性障害の評価に多用される。
臨床判断値	該当なし

基準値				単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし

パニック値	高値	該当なし
	低値	該当なし
生理的変動要因		該当なし
臨床的意義		呼吸機能検査は、画像診断検査や生検による組織・細胞検査とともに、呼吸器疾患の診断において重要な役割をもつ。近年の呼吸病態生理学の進歩によって、多種多様な肺機能検査や検査機器が開発され多くの分野で活用されている。 安静呼吸で息を吐いた時、肺に残っている空気量。(予備呼気量+残気量) CHESTAC-8900 は肺のガス交換(換気、分布、拡散)及び呼吸中枢の機能や効率を測定するために使用する。